

学校教育目標	『自らかがやく子』				
	【知】自ら進んで課題や問題に取り組み、積極的に学び続ける子を育てます。				
	【徳】友だちのよさを認め、自他を尊重できる子を育てます。				
	【体】健やかな心と体を育み、自他の生命や健康を大切にすることを育てます。				
	【公】社会の一員としてお互いに助け合い、社会のために行動する子を育てます。				
学校概要	創立 54 周年	学校長 石澤 康史	副校長 佐野 圭司	2 学期制	一般学級: 23 個別支援学級: 5
	児童生徒数: 762 人	主な関係校: 早瀬中学校 折本小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	早瀬中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉 〈問題発見・解決能力〉 〈心身ともにたくましく生きる力〉	早瀬中学校 折本小学校 勝田小学校	安心して学び合い、確かな学力を身につけられる早瀬中ブロック ①小中学校の教職員の人的交流を促進して、「学力観」「指導観」などの共有化を図り、基礎・基本の充実を目指した、授業改善の促進と学力向上を目指す。 ②小中学校間のいわゆる中1ギャップから生じる不登校問題等、今日的な児童生徒指導上の課題の解消を目指す。

中期取組目標	<p>○様々な集団や社会の中で豊かにかかわり合いながら、自らの役割を意識し自尊感情を高めます。</p> <p>・主に授業改善(分かりやすく、魅力ある授業づくり)に取り組み、子どもの学ぶ意欲を引き出します。 1年目…身につけさせたい資質・能力を明確にするとともに、話を聴き合う関係づくりに取り組む。 2年目以降…対話的で深い学びの充実を図るとともに、学習を通して自尊感情をさらに高めるように取り組む。</p> <p>・保護者、地域、関係諸機関と連携しながら、地域とともにある学校づくりに取り組みます。 1年目…学習活動だけでなく、学校運営のカリキュラムマネジメントを意識した学校づくりに取り組む。 2年目以降…カリキュラムマネジメントを推進し、地域とともにある学校づくりを充実させる。</p>
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	生きてはたらく知	①基礎基本の定着を目指し、全学級でユニバーサルデザインをはじめとする学習環境の整備を行う。②重点研究テーマ「互いに認め合う、豊かな人間関係の育成を目指して」様々な課題に対して筋道を立てて主体的に考え、様々な人やものとの対話を通して、学ぶことの意義や楽しさを感じながら意欲的に学び続ける力を育む。
徳	豊かな心	①たけニコやクラブ、委員会等の異学年交流で、目標や計画性を持ち、異学年同士のつながりを築く。また、学級会等の話し合い活動を通して、相手の立場や気持ちを思いやる心を育む。②自分を大切にする心や、よりよく生きようとする態度を養うために、実生活との関連を重視した道徳教育を行う。
体	健やかな体	①年間を通して短縄や長縄を用いた運動を行う機会をつくり、体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら進んで運動しようとする姿勢を育てる。②バランスイ〜ナワークを通して、バランスのよい食事は心身の健康や成長にとって大切であることを理解し、日常生活に生かす。
公	社会参画	①児童の実態や、学校・地域の特色、学習経験などをふまえながら課題を設定する。地域社会の一員として、よりよい社会をつくるために自ら考えて行動しようとする意欲と実践力を育む。②近隣の幼稚園、保育園、幼保園や早瀬中と、自分の役割と責任を自覚し、積極的に交流を図る。
開	多様性の尊重	①「だれもが」「安心して」「豊かに」を合言葉に、特別支援や日本語指導、登校支援など多様な学びの場を用意するとともに、一人ひとりが自他の違いを受け止め、価値観の異なる相手ともかかわり合える、あたたかな学級風土をつくる。②自分の思いや考えを安心して伝え合い、学び合う体験を通して自尊感情を育む。
いじめへの対応		①「いじめ防止」を人権教育や児童指導の中核に置き、すべての教育活動を通して未然防止に取り組む。認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。②些細な変化を見逃さない体制をつくるため、定期的な児童アンケート調査や教育相談による実態把握と、全教職員での研修を行う。
人材育成・組織運営(働き方)		①「チーム勝田」を全学年・全教職員で意識して仕事を分担するなど業務改善を図り、「仕事」と「仕事以外の生活」との調和をとりやすい環境をつくる。②メンターチームが自律的に企画・運営する研修を、ミドルリーダーやベテランがサポートし、教師の専門性を高める。
地域学校協働活動		①早瀬中とともに学校運営協議会を設置し、学校と地域が一体となって児童の成長にかかわる体制をつくる。②地域や関係諸機関と連携・協働し、発達段階に応じて切れ目なく支援したり、児童一人ひとりの学びを充実させたりする。
特別支援教育		①すべての児童にとって分かりやすい授業になるようユニバーサルデザインを意識し、学習環境を整備したり指導方法を工夫したりする。②保護者と共通理解を図りながら、一人ひとりのニーズに応じた個別的教育支援計画・指導計画を作成するとともに、全教職員で適宜情報を共有する。
児童指導		①児童が安心・安全に過ごせるよう、「学校のきまり」をもとにした一貫性のある指導に、全教職員で取り組む。②「全教職員で全児童を見る」という意識をもち、児童の実態とそれに伴う支援について共通理解を図る場を適宜設ける。